

春季彼岸会永代経法要

講師: 貴島 信行 先生

講題: 「柔らかなるころ」

2024. 3. 20(水)



本日は春の嵐で、気温も低く、
雨風ありの不安定なお天気の中
でしたが、遠近各地より皆様よう
こそこの御参詣でございました。



皆さんと共に『仏説阿弥陀経』のおつとめをしました。

その後、院主さんからご挨拶。この度のご講師、貴島先生とは約40年のお付き合いとなります。お互い年を取って頭も薄くなったと笑わせておられましたが、ともにお念仏をよろこばせていただきながらの年月は何にも代えがたい有り難いものです。まだまだ、これからもともにお念仏よろこばせていただきたいものです。

礼讃文に「^{にんじん}人身受け難し、今すでに受く。仏法聞き難し、今すでに聞く。」とあります。人としてこの世に生まれることは難しく、仏法に会うこともまた難しい。「わたし」は一人で生まれたわけではなく、一人で生きているわけでもありません。両親やご先祖、阿弥陀さま、多くの願いによって生かされているのだから丁寧に大切に生きていきたいものですねとおっしゃられました。



自分中心はなかなか止められません。今お参りに来たのは自分の足で来たかもしれないが、足を向けさせたはたらきがある。それは先祖の方、阿弥陀さまのはたらきであるのに「わたしが」との思いが強くそのはたらきに気づかないのが「わたし」です。

阿弥陀さまに願われて導かれて、安心して柔らかなるころころになり、今ある「わたし」の有り難さをよろこばせていただくことをお彼岸のご縁にお聞かせくださいました。



法要後には丁度雨が止んで、傘を差さことなく納骨堂の前でおつとめすることが出来ました。

